

平成 13 年 5 月 9 日

金沢市長  
山出 保 殿

金沢市小立野 3 - 1 2 - 2 8  
中 登史紀 (建設コンサルタント)

## 公開提案書

**提案：開発した工業用水の河川維持用水（流水の正常な機能の維持用水）への転用  
（昭和 4 0 年度に犀川ダムで開発した工業用水 3 万 2 千 m<sup>3</sup> / 日は 3 5 年間、未利用。  
ダム貯水池の 2 0 7 万 m<sup>3</sup> が遊休化。）**

犀川ダムで開発した「工業用水」を犀川の「河川維持用水（流水の正常な機能の維持用水）」に転用することを提案する。

その理由は以下のとおりである。

### （ 1 ）十分な水量

石川県土木部は犀川の河川維持用水のために 6 万 m<sup>3</sup>/日（0.7m<sup>3</sup>/秒、ダム貯水量 240 万 m<sup>3</sup>）を開発する必要があると主張し、「辰巳ダム」を計画している。夏場の渇水期に、6 万 m<sup>3</sup>/日を 4 0 日間、河川維持用水として供給することを想定している。犀川ダム貯水池の工業用水容量 2 0 7 万 m<sup>3</sup> は、河川維持用水の約 3 5 日間分に相当する。河川維持用水は工場用水とは性格が異なり、ある程度の変動を許容する特徴から見て、提案の用水を活用することによってほぼ 100%、「辰巳ダム」開発予定の河川維持用水をカバーすると考えて良い。

### （ 2 ）良好な水質

犀川ダムの流域は、辰巳ダムの流域とは異なり、集落が無いので犀川ダム湖の水質は良好である。したがって、辰巳ダムで開発する水よりも良質の水を得ることができる。

### （ 3 ）辰巳ダム建設費用（ 1 4 0 億円）の 4 0 億円（容量比）程度の減額

「辰巳ダム」で河川維持用水のために開発する費用が不要となる。「辰巳ダム」の有効容量 8 0 0 万 m<sup>3</sup> のうち、河川維持用水のための容量は 3 割の 2 4 0 万 m<sup>3</sup> である。容量比で費用計算すると、約 4 0 億円に相当する。この費用を軽減できる。

市民・県民に取ってはどのような名目であろうと、開発する水は同じである。工業用水に使用しないのであれば、河川維持用水に使用すればよいのである。市民・県民が支払う税金を無駄にすることなく、未利用の水を河川維持用水に活用できる、一石二鳥の案であると考えております。この提案に関して、以下の問いに誠意あるご回答をくださるようお願いいたします。

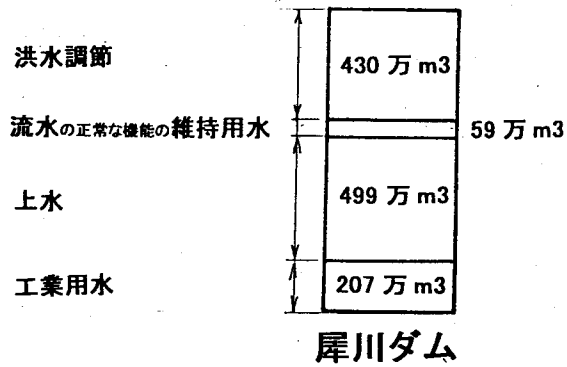
( 1 ) この考えに賛成されますか。賛成されるならば、実現に向けての方策をお答えください。

( 2 ) 逆に、この考えに賛成できない場合は、その理由を**具体的に、すべて** お答えください。

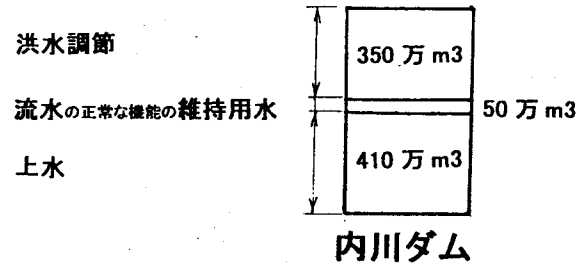
以上

遅くとも、一週間以内にご回答くださるよう希望いたします。

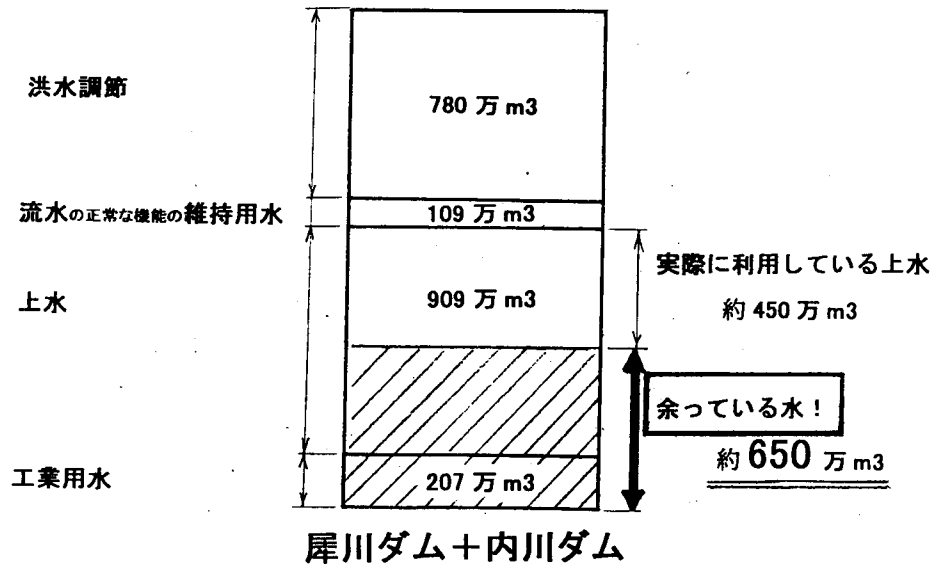
# 既設ダムの水余りと辰巳ダム



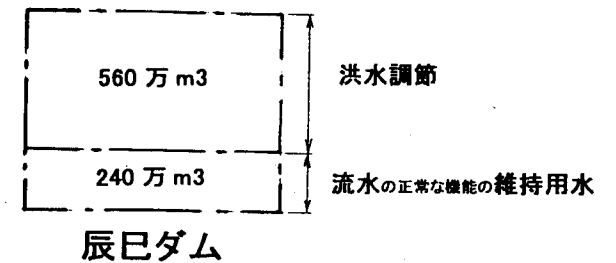
有効貯水量: 1,195 万 m<sup>3</sup>



有効貯水量: 810 万 m<sup>3</sup>



有効貯水量: 2,005 万 m<sup>3</sup>



有効貯水量: 800 万 m<sup>3</sup>

13